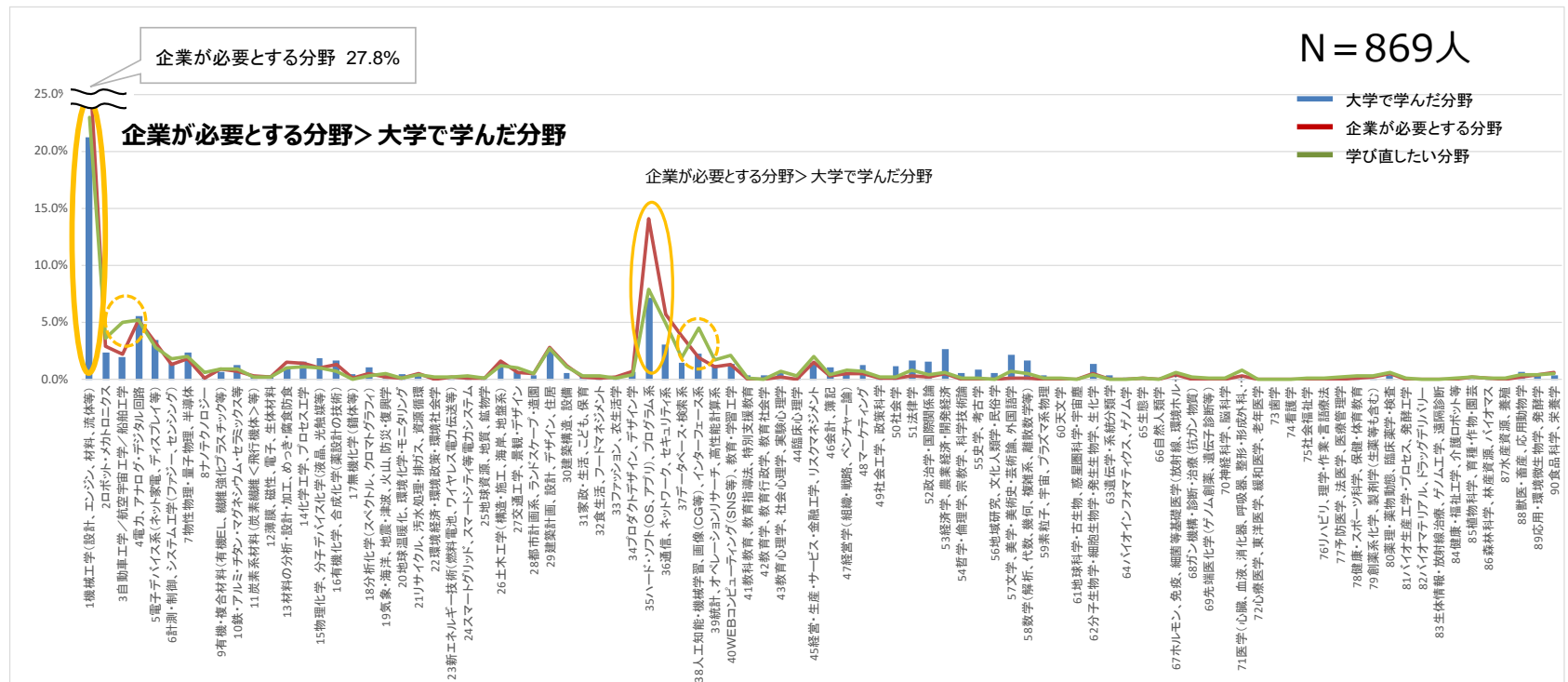


現在の業務で必要とする分野と大学で学んだ分野との比較 (職種：技術系)

社会人アンケート

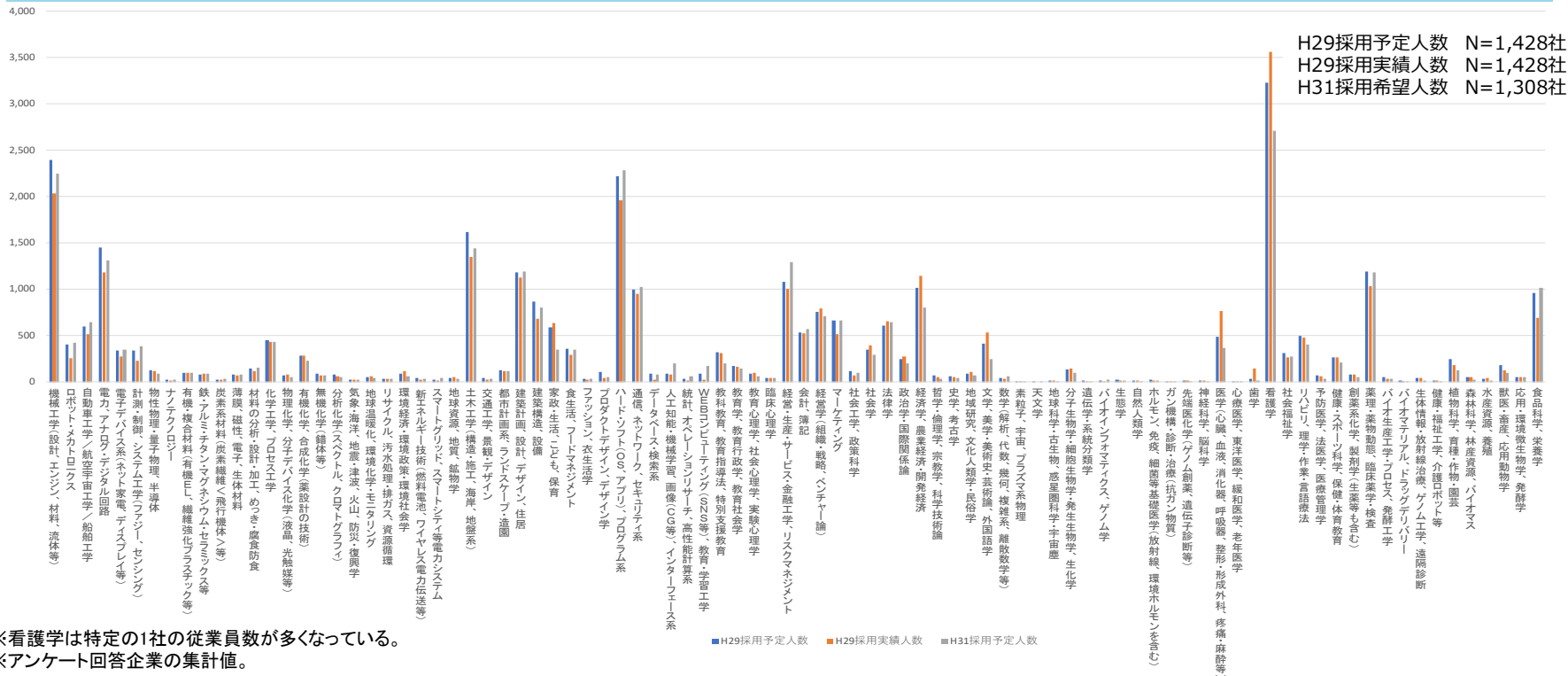
- 機械工学、ハード・ソフト、プログラム系、通信、ネットワーク、セキュリティ系、データベース・検索系では企業のニーズが著しく高くなっている。
- 学び直しのニーズは、概ね企業のニーズと一致するが、自動車工学、人工知能等は企業のニーズを上回っている。



平成29年度4月採用予定人数、採用実績人数と 平成31年度4月採用希望人数の比較（新入社員）

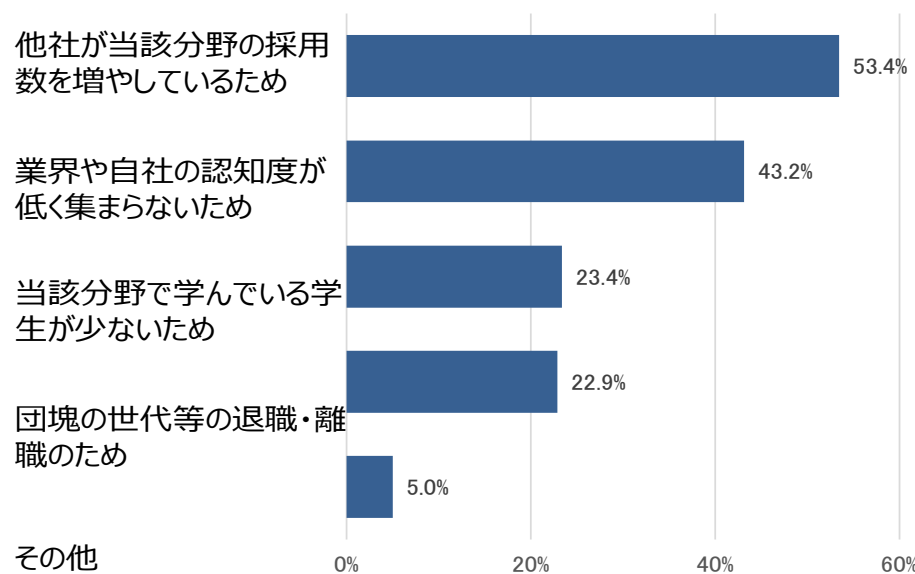
企業アンケート

- 平成29年度採用予定人数とH29年度採用実績人数を比較すると、全体的に採用予定よりも採用実績が少なくなっており、全体では▲6.8%となっている。特に、機械工学、電力、土木工学、ハード・ソフトウェア系、食品科学は予定通り採用ができていない。
- 平成29年度採用予定人数と平成31年度の採用希望人数を比較すると、全体的には▲7.7%と採用希望人数が減少している。その中で割合が増加している分野は、人工知能(+125.0%)、統計・オペレーションズ・リサーチ(+90.9%)、webコンピューティング(+84.7%)、数学(+69.2%)である。



5年後技術者が不足する理由

- 技術者が不足する理由は、「他社が当該分野の採用数を増やしているため」(53.4%)が最も多く、次いで「業界や自社に対する学生認知が低く、応募が集まらず採用に至らないため」(43.2%)、「当該分野を学んでいる学生数が少ないため」(23.4%)と続く。



その他回答者の自由意見

- ✓ 3K業種のため集まらない
- ✓ AIの発達
- ✓ その専門分野の学生の応募は少ないが、業務上のニーズは高いため
- ✓ まだ分野として成熟していないため
- ✓ 育成に時間がかかるため
- ✓ 応募が集まらないこともあるため
- ✓ 業界全体が人手不足なため
- ✓ 少子化による絶対数の減少
- ✓ 売り手市場であり、採用予定数に至らないため
- ✓ 福祉は給与水準が低い
- ✓ 県外で就職するケースが多い
- ✓ 都心部への人材流出

※無回答が存在するため合計が100%にならない。

N=1,324社 複数回答

産学連携の取組と課題

- 回答企業のうち約7割が産学連携を実施。今後取組を実施したいものに「1週間程度のインターンシップ受入」、「共同研究」、「学生を対象とした1日程度のセミナー実施」が多い。
- 今後取組を実施したい「1ヶ月以上の中長期インターンシップ受入」の割合(12.7%)は、現状の実施状況の割合(7.4%)を上回り、他の項目と比較して、その差が大きい。

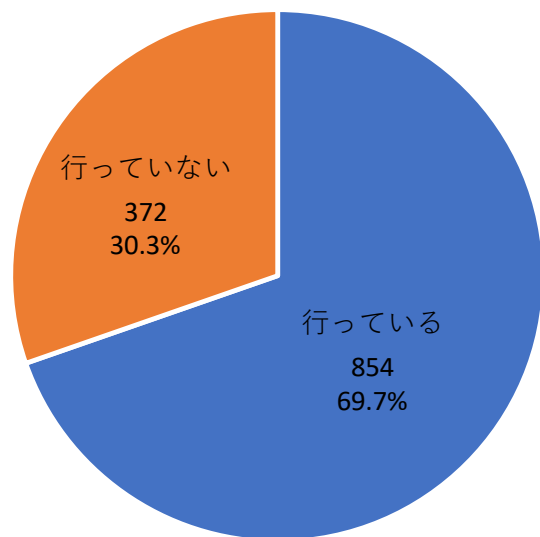


図1 企業の産学連携の実施状況
N = 1,216

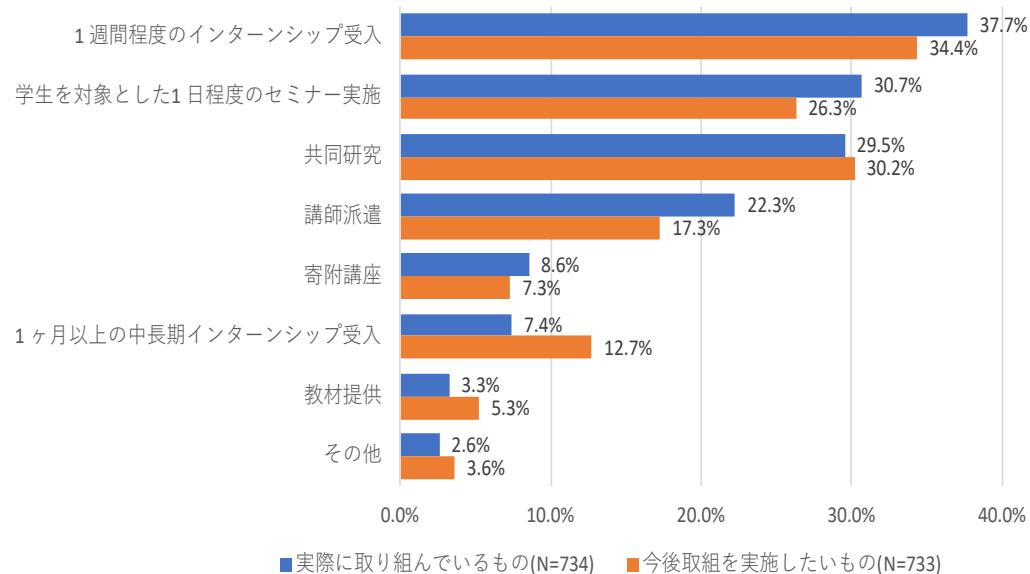


図2 現状の取組みと今後取組みを実施したいもの